

大腸内視鏡の説明および承諾書

A. 検査の実際

- ・検査は検査台の上で、左を下にして寝てもらって行います。
- ・始める直前に点滴を行い、鎮痛剤と大腸の動きを抑える薬を注射します（前処置）。これで半分眠ったような状態になり、痛みが軽くなります。
- ・肛門より内視鏡（直径1 cm位で長さ1.5 m位の軟らかいもの）を挿入していきますが、内視鏡が大腸の中を通過するとき腹痛や腹のはる感じがおこることがあります。全身の力を抜いてリラックスするのが楽にうけるコツです。もし、痛みが強いときは遠慮せず医師におっしゃってください。
- ・検査は15分から1時間位かかります。病変が見つかったときは生検という処置を行います。生検とは病変の一部を1～2 mm位、鉗子とよぶ道具でかじりとることです。生検には痛みはありません。

B. 検査のあとで

- ・大腸の中へ空気を送りこむため、検査後、腹にガスがたまったような感じがしますが、これは排ガスにより徐々にとれてきます。
- ・鎮痛剤の影響がとれるまで眠気やぼうっとした感じやふらつきがありますが、これも徐々になくなります。ただし、当日は車の運転などはしてはいけません。
- ・検査の当日は飲酒、暴食、過激な運動は禁止です。
- ・検査の後で肛門から出血したり、血便がでたりすることがあります。また、大腸に穴があき（穿孔という）、強い腹痛がおこることがあります。このような症状があればすぐに連絡してください。出血や穿孔が起きた場合、輸血や緊急開腹手術が必要になることがあります。

C. 大腸内視鏡偶発症

- ・大腸内視鏡には事故（偶発症）がおこることがあります。前処置で起こる重大な偶発症は腸閉塞、穿孔、呼吸抑制です。内視鏡検査で起こる重大な偶発症は出血と穿孔です。偶発症によっては輸血や緊急開腹手術が必要となったり、死亡例も報告されています。その頻度は以下の通りです。

大腸内視鏡関連偶発症発生率	0.06%
同 死亡率	0.002%
前処置の偶発症発生率	0.025%
同 死亡率	0.002%

ともつ内科クリニック 鞆津 浩一

D. 承諾の署名について

- ・上記のような検査ですので施行については承諾の署名が必要です。本人あるいは代理人の署名をお願いします。

大腸内視鏡および必要なら生検を受けることを承諾します
患者あるいは代理人氏名（ ）平成 年 月 日
（続柄 ）

E. 質問表

- 以下の問いで該当する方に○をつけてください。
- (はい・いいえ) 心臓が悪い（狭心症、心筋梗塞、不整脈、心不全などで治療を受けている）
 - (はい・いいえ) 血圧が高い
 - (はい・いいえ) 眼圧が高い（緑内障）
 - (はい・いいえ) 血が止まりにくい
 - (はい・いいえ) 血が固まりにくくなる薬を飲んでいる
 - (はい・いいえ) 排尿困難がある（前立腺肥大）
 - (はい・いいえ) 薬のアレルギーがある（薬の種類、名称）
 - (はい・いいえ) B型肝炎、C型肝炎、梅毒、エイズなどにかかっている
 - (はい・いいえ) その他の病気や症状（ ）
 - (はい・いいえ) 以前に大腸内視鏡を受けたことがある
 - (はい・いいえ) 以前に開腹手術を受けたことがある